



学芸員が厚真町の歴史を解説します！

厚真日誌

まちの学芸員 **乾 哲也**

小学校6年生の社会科の授業で考古学に目覚め、札幌学院大学卒業後、奥尻町、白老町、礼文町、千歳市で発掘調査を行う。平成14年から厚真町に根差した学芸員。



第1回

北海道150年のキーマンが見た160年前のアツマ〔1〕 北海道の名付け親 松浦武四郎

私たちが住む北の大地、北海道は、かつて「蝦夷地」と呼ばれていました。約260年間続いた江戸時代が終わり、今から150年前の明治2年(1868年)に新政府より「蝦夷地」は「北海道」と改められます。この名付け親となったのが、現在の三重県松坂市出身の松浦武四郎(1818年生〜1888年没)です。

武四郎は、16歳で江戸へ旅に出て以来、九州や対馬から東北地方までの全国を旅して回り、28歳の時(1845年)に初めて蝦夷地に渡ります。



松浦武四郎(所蔵:松浦武四郎記念館)
晩年は70歳で富士山にも登頂の健脚! その元気の源は、いくつになっても持ち続けた探究心!

その後、6回ほど蝦夷地やサハリン、国後島を探検し、その最後の6回目となる1858年に私たちの厚真町を訪れています。

彼は、これまでの沿岸部のみの北海道地図をもとに内陸部までくまなく探検し、詳細な地図を初めて作成した人物です。この地図も重要ですが、アイヌの方々から聞いたお話を詳しく書き残しています。厚真町でもアイヌ民族の方の案内のもと3泊4日(2泊3日説も)滞在し、町内の地名、その語源などさまざまなお話を残しています。

「北海道」と命名されて150年、松浦武四郎が厚真を訪れてちょうど160年目となる今年。今月から3回にわたって松浦武四郎が記したアツマを紹介し、皆さんとともに160年前の私たちの厚真町に思いをさせてみたいと思います。



東山蝦夷山川取調図首 (所蔵: 国立国会図書館)



東西蝦夷山川取調図五 (所蔵: 国立国会図書館)
(厚真町~苫小牧市・恵庭市までの地図)

大久保利通の推薦で北海道開拓使判官へ

自らが歩いた北の大地

「北加伊道」(北海道)への強い思い

アイヌの人々に支えられ、ともに自らの足で歩き、アイヌ語で話し合い学んだ武四郎は誰もが認める「日本一の北海道通」。

武四郎は蝦夷地改名の際に「東海道」や「西海道」に使用されている「海」の文字を使わずに「北加伊道」という名前を提案しました。「カイ」はアイヌ語で「この地で生まれた者」を意味しています。武四郎のアイヌ民族への敬意を込めた表現だったのでしょうか。



2018年は北海道150年
Hokkaido's 150th Anniversary

発行 / 北海道厚真町

企画・編集 / まちづくり推進課企画調整グループ

ホームページ / <http://www.town.atsuma.lg.jp/>

〒059-1692 北海道勇払郡厚真町京町120番地

電話 / (0145)27-2321 (代)

メールアドレス / atsuma@town.atsuma.lg.jp